

編集後記

今年も皆様のお陰で、まずまずの会誌が出来あがったのではないかと心密かにほくそ笑んでおります。

現実の私の役割は、右のものを左に、下のものを上に置き換えているに過ぎませんが。

それにしてもこれだけバラエティーに富んだ会誌も少ないのではないかとと思います。編集に携わらせて頂いている身として、光栄に感じます。

これに触発されて、是非皆さまも来年はご参加下さい。

私は出来るだけ多くの方に参加していただきたく思い、『エーほんとう?』と『お役に立てば』のシリーズを始めました。

前者は、今回も片山章様、小木曾文子様等の貴重な体験談を紹介できました。数百名の皆様の数十年にわたる人生の中には、きっと驚くべき経験・出会いがあったものと思われまます。ご紹介下さい。

また、後者に関しても、数百名に及ぶ会員の皆様の

職業から得られた知識・学識は相当な分野に及ぶものと思われまます。今までは、どうしても医師を職業とされた方のものを、ご紹介させていただきましたが。

でも、建築士だった方なら「地震対策」を、税理士・公認会計士だった方なら、「資産管理」についてといった役に立つお話を、ご披露頂けるのではないかと思っています。

と言いながら、正直言って私は一抹の不安を抱いております。この会誌もよくて後、四年 第二十号まで続けられれば上出来かな? 早ければ後、二年で終了となるかも と思います。私が飽きたからと 言うのではありませんし、多くの方から無視し続けられたから と言うものでもありません。

私よりもっと適任の方が編集に携われれば、別の展開があるかも知れません。ただ、いずれにせよそれほどいつまでも続くわけではないのですから、「書いとけばよかった」の思いが残りませんように、さく 今から、筆を執って下さい。お待ちしております。

(萩原記)